

## 新人研修修了 研修を終えて ～成長と今後の抱負～

2月25日に新人看護師9名が1年間の学び、反省、苦勞したことなどを振り返り発表しました。皆それぞれ悩んだり、困ったりしたことがあったようですが、自分で工夫したり、師長や主任等にアドバイスをもらったりしながら解決していたようです。

ローテーションでは、患者さんやスタッフとのコミュニケーションが難しかったとの発表がありました。1つの部署に慣れた頃に次へ異動しなければならず、一番のストレスとを感じる人が多かったようです。新人の立場では、聞きたいことがあっても、なかなか話しかけられなかったり、聞けなかったりしています。先輩である私たちも話しかけにくい雰囲気を出していたのかもしれませんが。新人が来たときは話かけやすい環境作りが必要であると感じました。先輩である皆さんから、何か分からないことがないか声をかけてみてください。

新人看護師の大きな成長が感じられた良い発表となりました。先輩となる皆さんも来年度の新人さんに優しくしてあげて下さいね。(長元)



## 3階東病棟 田代季沙

一年間を振り返り、たくさんの人との出会いが大きく印象に残っています。これから出会いを大切に、1つずつの看護をていねいに行えるようがんばっていきたいです。また、たくさんの知識や技術を身につけられるよう学び続けていきたいです。

## 3階西病棟 小坂慶太郎

研修中に受けた指導や先輩方の助言により、報告・連絡・相談することの大切さを教わりました。患者さんや家族の思いに対しての先輩方の関わり方を見て、対応の仕方を学ぶこともできました。研修を経て、今度は自分が教わったことを後輩に教えていけるように、これからも日々多くのことを学んでいきたいと思っています。

## 4階西病棟 後藤敦子

自分の知識の少なさを感じた1年でした。各病棟でのローテーションの中で、スタッフ同士や患者さんとのコミュニケーションの大切さを強く感じました。今後は学んだことを活かしていこうと思います。

## 3階東病棟 東野正憲

この1年間、新人ローテーションで3ヶ月ごとに各病棟をローテーションしていき、さまざまな疾患を持つ患者さんとかかわる機会を持つことができ、知識を深めていくことができました。これからも知識を深め、経験を積み、患者さんによりよいケアができるようがんばりたいと思います。

## 4階東病棟 柏木裕美

研修部署ごとに目標を置き、段階を踏んで技術面、看護展開において少しずつ成長できたと感じます。自ら学び、知識を深めると共に、患者・家族の思いを聴く姿勢を持ち、その思いを大切にかかわっていききたいと思います。

## 4階西病棟 成塚美穂

今回3ヶ月ずつのローテーションを1年間行って、患者・家族との関わりや病棟ごとの概要・疾患・看護技術について深めることができました。今回の学びを今後、看護を行っていく中で少しでも活かしていけるようになんげばっていききたいと思います。

## 3階西病棟 田代竜也

1年間の研修で多くのことを学ぶことができたけど、やっぱり心身共にきつかったです。一人でできることは限られているので、チームでの協力が大事だと感じ、精神的にも成長できたと思います。2年目になりますが、初心を忘れず安全・安楽、個別性のある看護を目指しがんばっていきます。

## 4階東病棟 濱田幸蔵

1年間の研修で、疾患の理解を深めただけでなく、自分は何を大事に看護をしていくのか考えさせてくれた1年でもありました。患者の治癒能力を高めたいと考えられるようになった今、食生活、生活環境など整えられる看護師を目指したいと思っています。

## 4階西病棟 村上智恵美

あっという間の1年間でした。たくさんの研修を通して、実際の看護技術、病院の仕組みや連携を学び、病棟ローテーションがスタートしました。3ヶ月クールで各部署の特殊性や疾患・看護を学ぶのは思っていた以上に大変でした。しかし、先輩方や患者さんからたくさん学びがあり、とても実のある1年間でした。この貴重な経験を今後活かして、これからも努力していききたいと思います。

# ● 教育委員会 研修レポート

## STARTING

1/28(木)

### ナラティブ発表会

新人研修生によるナラティブ発表会が開催されました。これまで自分がかかわった患者との場面を振り返り、患者の思いや自分の心の動きを深く知り、看護観を深める時間になりました。発表の中では、研修生が1年間、経験を重ねて来た中で、成長を感じることができ意見が多く、うれしい思いでした。この学びを日々の看護に活かし、これからがんばってください。(岩下)



## HOP

1/14(木)

### 看護研究計画発表

今回のホップ研修対象者には、看護研究に関する院外研修(看護協会主催3回・純心大学主催2回)を受講してもらいました。そこで成果を発表するために、今回初めての試みで上記発表会を開催しました。実際に看護研究をした人、していない人では計画書の内容に差はありましたが、各自それぞれのテーマに沿って発表できました。その後に、計画書の必要性をどう捉えたかをグループワークし、自分では気づかない部分も他者の計画書を見ることで気づけていました。

研究計画書が看護研究において大きな位置を占めていることが理解できたのではないのでしょうか。看護研究、計画書への恐怖が少しは軽減して、親しみやすいものになったかな？ いろんな人の計画書を見る機会はありませんのでよい機会だったと思います。(瀬戸口)



## JUMP

1/21(木) 講師:関口看護部長

### サービス評価 ～日本医療機能評価を用いて～

基準に基づいた評価を行うことで、医療の質の向上のためには、何が不足しているのかを把握しやすくなり、具体的な目標を立てて取り組むことで、職員の自覚と意欲の向上が図られ、地域における医療の信頼性を高めることにもつながることを学ぶことができました。普段行っている看護を振り返る意味でもよい機会となりました。(木村)



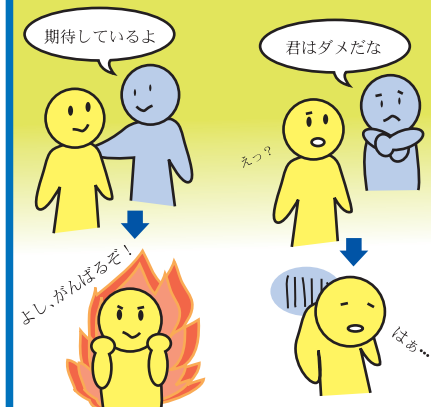
## CAREER

### 管理コース:「実習指導について」

12/24(木) 講師:山口教育指導担当師長

#### ピグマリオン効果

無条件に信用されると人は良い成績を残す



管理コース3名が、「教育評価」・「ピグマリオン効果」について事前に調べてきた内容を分かりやすくまとめて、それぞれプレゼンテーションを行いました。

臨床実習における実習評価には 1. 事前評価 2. 形成評価 3. 総括評価 の3つがあり、この中で形成評価が重要です。形成評価は学生ができないことを補充しながら、指導・評価して、評価をする際はプラス方向へ変容させることが大切です。

ピグマリオン効果とは、相手に期待をすることによって相手もその期待に応えようとする現象です。実習では学生の悪い点が目についてしまいがちですが、相手の成長を信頼して期待を持ち、長所を伸ばそうという温かい態度で接していくことが大切であるとプレゼンの中でありました。

皆さんも相手の悪いところを見つけるのではなく、良いところを見つけて信頼し、伸ばしていけるよう指導していくと、相手の成長に変化があるかもしれません。(長元)

## 院内S-QUE研修1000' Eナース コメント

### 1/6 放送 「フィジカルアセスメント・基礎」

フィジカルアセスメントを行う上で最も大切なこととは、「異常に着目するよりも正常がわかっていること」であるということ、また、解剖整理をふまえた上での観察の方法や、観察しなくてはいけないところのポイントをおさえることができる内容であり、臨床の場ですぐに活用できそうなものばかりで、とても勉強になりました。(池田)

### 1/20 放送 「フィジカルアセスメント・応用」

経験に伴い日常業務を当たり前の行為として行い、頭を使わない傾向にあると感じました。フィジカルアセスメントは経験から憶測せず、常に疑問と探求心をもち、客観的な知識から分析し行動することがなぜ必要か学びました。(中園)

### 2/3放送

#### 「看護師に必要なリハビリテーションの知識と技術」

私の所属する病棟では、リハビリを受ける患者が多く、日々の関わりの中でもリハビリスタッフとの連携が重要な病棟だと思います。

リハビリテーション看護は「人間の生命および体力を守り、生活環境を整え、日常生活への適応を援助し、早期に社会復帰できるように支援すること」と定義されています。実際の看護の場で、どのような取り組みをしていくことができるのか、写真を見ながら学ぶことができ、とてもわかりやすかったです。今後、患者さんとのかわりの中で活かしていきたいと思います。(鷺尾)

### 2/17放送

#### 「脳損傷における摂食・嚥下障害のアセスメントとアプローチ」

健康な人は、咀嚼→嚥下の一連の動作を当たり前にでき、むせ込んだときは、咳そう反射で気管への侵入を防ぐことができますが、高齢者、脳に障害がある人はその一連の動作ができなくなります。唾液すら飲み込めず、口腔内は不衛生になってしまい、そうすると肺炎などの合併症を引き起こし、重症化することもあります。現代は高齢化社会であり、脳卒中を起こす人が増加してきています。今後取り入れられる摂食・嚥下療法は重要になってきます。食事介助をしていて、食事介助がうまくいかないな～、食べこぼしが多いな～、うまく飲み込めていないな～など疑問に思った人は、解剖生理、嚥下訓練方法、食事介助方法、口腔ケアの方法などさまざまなことが入っているので、是非参考にしてみてください。(下門)

## プリセプターとしての成長

2月18日にのプリセプター会では、1年間プリセプターとしてかわり、自分自身の成長や学びを振り返る機会になりました。

グループワークでは、「答えを急がずに相手の話を聞く姿勢を学んだ」「答えを教えるだけでなく、なぜそのように行動・判断するのか、プリセプターの思いや考えを聞き出すことが大切」「プリセプターとかかわる中で、自分自身の性格を客観的に見るできるようになった」など、多くの意見が出されました。それぞれプリセプターとしてだけでなく、看護師としても大きく成長できたのではないかと感じました。今後はこの学びを、新人指導やスタッフとのかわりに大いに活かしてもらいたいと思います。(岩下)

## 教育委員会からのお知らせ 評価表の入力について

今までは、紙ベースで第三者評価をしていましたが、紛失事件が発生したり、誰の手元にあるのか把握しにくかったりと問題が生じていました。これらの問題を解消するため、4月以降の研修からパソコン入力に変更しようとただ今、準備中です。

パソコン(電カル以外)デスクトップの評価表フォルダから入って、自分のフォルダ内の評価表に入力してもらいます。詳細は今後決定予定ですので、4月以降に教育委員へお尋ねください。

## ポートフォリオ(Portfolio)の使い方

昨年5月に、青色の個人ファイルが配布されていますが、どのように活用していますか？そして『ポートフォリオ』って何でしょう？

ポートフォリオの語源は「紙ばさみ」「書類入れ」ですが、一般的には個人の活動記録をファイルしたものをポートフォリオと呼びます。「看護職としての成長記録として利用できる」、「経験の蓄積を可視化できる」、「ファイルを介して他者へ経験を伝える手段になる」などの特徴があります。

この学びの過程を可視化したポートフォリオを一番利用するのは、**あなた自身です**。ファイルした成果物を振り返り、伸びてゆく方向性(到達項目)に照らして、自分が獲得してきたことと、これから獲得すること、つまり今後の目標を意識しながら、ポートフォリオに自己の成長の証として残していけるよう、どんどん活用して下さい！

## 私の自慢

### 4階東病棟:中森一文さん



それは膝くらいの本当に小さな波でした。貸してもらったサーフボードにつかまって、波に押されたサーフボードはそれまで私が体験したことのない景色を私に見せてくれました。それが、私とサーフィンの出会いでした。

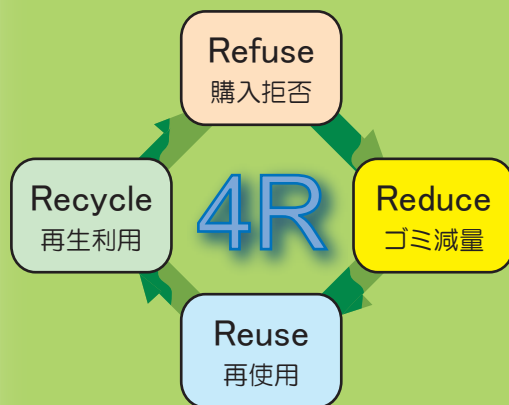
それから6年、サーフィンを続けています。もちろん冬も。よく「寒くないの？」と聞かれますが寒くないわけではありません。だけど、寒さを忘れるくらい波に乗るのが楽しいです。初めて波に押されたとき、初めて板に立てたとき、初めて波を横にいったとき。全てが初めて見る景色で、今でも覚えています。波に乗らないと見られない景色があって、その眺めは最高です。同じ様な波はあっても同じ波は二度とありません。世界で一つだけの波に乗っているわけで、その波と波にのって見られる景色は自分ひとりだけのモノです。その1本にどれだけ集中できるか、その1本で自分ができることをどれだけできるか。すごく難しくて、全く思うようにはいきませんが、それが僕の思うサーフィンの魅力です。

サーフィンはうまくありませんが、『サーフィンが好き！』これが僕の自慢です。

## マイブーム

### 外来:福山 雅さん

マイブームはリサイクルです。リサイクルにもいろいろな種類がありますが、私は妹の引っ越しをきっかけに、リサイクルショップに行くようになりました。近年は同一種の製品に再循環できないタイプの再生利用や電化製品、古着などの中古販売についても広くリサイクルと呼ばれることが多いみたいです。川内にもいくつか中古販売、買い取りのお店があります。そこでは、家具、家電、古着、雑貨、本、ギフト商品、アクセサリ等、幅広いジャンルの物を買って取ってくれました。処分するのにお金がかかってしまう物も、リサイクルに出せば逆にお金になったりするんです。こんな簡単に4Rが誰でもできるんですね。これからもリサイクル続けたいと思います。



## 教育委員会 伝達研修のお知らせ

\*日時;3月25日(木)17:30~18:30

\*場所;2階 会議室

\*プログラム

実習指導者講習会を受講して

4西病棟 主任 下青木 育美

3東病棟 主任 松元 美智子



チリ・ハイチ地震への募金は  
総額14,700円となり、鹿児島  
県看護協会へ届けました。  
皆さまのご支援・ご協力あり  
がとうございました。

## 編集後記

新人看護師9名は、約1年にわたる研修が修了し、2月21日から所属部署で働き始めました。3ヶ月おきのローテーションは、人や物に慣れた頃に異動するため、かなりのストレスです。新人看護師の評価では「スタッフにポジティブに評価されていると感じる」という項目が、低い傾向になっています。

4月からは12名の新人看護師が研修予定です。プリセプター、エルダーを中心にスタッフ全員が新人看護師に関心を持ち、皆で育てるというスタンスで、ポジティブフィードバックに心がけ、支援していきましょう！